



さらなる年金削減の中止と最低保障年金の実現を求める請願書

犬山市議会

議長 堀江 正栄様

2014年5月30日

請願者

住所

(団体名) 全日本年金者組合愛知県本部
犬山支部長

紹介議員 氏名

小林 敏彦
岡 寛
水野 正光
岡村 千里

《請願の趣旨》

市民の福祉増進への日頃のご尽力に敬意を表します

昨年、12月に年金額の改定通知書が届いて以来、多数の受給者が行政不服審査請求を行い、その数は12万6千人を超えるに至りました。『物価が上がり、消費税が増税されるなかで、これ以上年金が削減されたら、生活が成り立たなくなる』という高齢者の怒りがうねりとなって大きな数になりました。

年金の削減は消費を冷え込ませ、不況を一層深刻にし、国の経済にも負の影響を与えることが懸念されます。地域経済にも大きな影響を及ぼします。安倍首相は、『経済の好循環』を経済政策の柱にしていますが、年金のさらなる削減は、それに逆行するものです。

また、政府は「社会保障と税の一体改革」の中で、年金支給年齢の引き上げを検討しています。このような年金制度の改悪によって、若者を中心に年金離れが一層進み、年金制度への信頼はさらに低下することが懸念されます。

今、国が行うべきことは、これ以上年金の引き下げや、年金の支給年齢の引き上げは止め、正規雇用を拡大し、最低保障年金制度を早急に確立することです。そのための第一歩として、現在の国民年金への国庫負担金(約3万3千円)を、無年金者を含めて一律に支給することから始めて、年金制度に対する信頼を回復することです。

以上の趣旨から国に対して、下記事項の意見書提出の採択をお願いします。

《請願項目》

- 1、さらなる年金の引き下げをやめ、年金支給年齢の引き上げをやめること。
- 2、最低保障年金制度への具体化に着手し、年金制度への信頼を回復すること。

以上

